

長野県木曾青峰高等学校 平成30年度第1回学校評議員会 記録

日時 平成30年7月20日(金) 午後3時30分から午後4時55分

場所 木曾青峰高等学校同窓会館

出席者 学校評議員 同窓会長・同窓会副会長・PTA会長・前木曾町中学校長・木曾町区長会長
学校職員 校長・全日制教頭・定時制教頭・全日制教務主任・定時制教務主任
進路指導主事・生徒指導主事・1学年主任・2学年主任・3学年主任
理数科主任・森林環境科主任・インテリア科主任

1 開会

2 学校長挨拶

3 生徒による学科紹介(普通科・理数科・森林環境科・インテリア科・定時制)

4 学校からの報告

5 学校評議員からの質問・意見・要望等

(評議員) 高校改革の実施方針にある「モデル校」には是非手を挙げてほしい。「少人数学級」には多くの学校が応募するだろうが、「産業スペシャリスト」については、地域的には有利ではないか。

(評議員) 木曾に学校を残すという意味では、新しい学校作りをするチャンスでもある。

(評議員) 少人数学級実現は、条件など厳しいかも知れないが、地域として何ができるかを考えたい。地域で話題を作っていく必要もある。

■どのようになるか分からないが、手を挙げるつもりである。情報提供を今後もしていきたい。

高校の将来を考える組織(地域協議会)が近々発足し、木曾の学校の今後のあり方が話し合われる予定である。

(評議員) 支援の必要な生徒が増えているので、中高の連携が必要である。

(評議員) 総文祭に参加する新聞記事で、生徒の活躍を知り感動した。外へ出て行くことは大切である。頑張ってきてほしい。

(評議員) 授業参観をさせてもらったが、暑い教室で頑張っている生徒の姿に感動した。最低限の学びの環境を整える必要があると感じた。

(評議員) 学校評価の中で具体的な数値目標が掲げられているが、数値を上げる必要があるのか。それが生徒を追い込むことにつながらないか。先生がリラックスして生徒と勉強してほしい。

■数値は義務ではなく、あくまでモチベーションを高めるためのもの。努力目標ととらえてほしい。

(評議員) 昨年度の10周年記念式典や文化祭などの生徒の活躍ぶりを見て、うれしく思った。ただ以前と比べて挨拶をしない生徒が増えているような印象を受け、寂しい気持ちになった。

(評議員) 部活動も含めて、さまざまな生徒への指導に感謝している。授業参観をさせてもらったが、ほとんどの生徒がまじめに取り組んでいた。地元の企業に多くの生徒を送ってほしい。

5 終わりの挨拶(校長)

6 閉会